

一 次の問いに答えなさい。

問一 各文の――線の漢字の読みを、それぞれひらがなで書きなさい。

① 新米を出荷する。

② 難しい局面を開く。

③ ポスターを刷る。

④ 新緑の野山を歩く。

問二 各文の――線のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

① イサイはあとで知らせます。

② キシヨウ価値のある品物。

③ 職を失いロトウに迷う。

④ 付近一帯がティデンした。

⑤ 予想がテキチュウする。

⑥ 水をアびる。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、設問の都合で一部を改変しています。

「スイカの種を誤って飲み込んでしまうと、お腹の中で芽が生える」

こんな噂をよく耳にする。

A

この噂は本当だろうか。植物の種子の発芽に必要なのは水分、温度、酸素の三つの要素である。胃の中には十分な水分があるし、温度も高い。酸素だってあるだろう。まさか、本当にお腹の中で芽が出てしまうのだろうか。

B

スイカの種を飲み込んだからといって、お腹の中で芽が出るようなことはないので心配はいらない。胃液の主成分は塩酸で、胃の中はかなりの強酸性の状態である。胃の中は、あらゆるものを溶かしてしまう溶鉱炉のような場所なのだ。とても芽を出すどころではない。生存することさえ難しいだろう。

C

スイカの種は芽を出さないまでも、胃の中でも消化されることなく生き残る。スイカの種子は固く丈夫なガラス質で覆われているので、強大な消化力を持つ胃でも消化されないのである。

D

スイカの種

「誤って飲み込んだスイカの種が引つかかって虫垂炎になる」という噂もある。この噂はどうだろう。胃の中で芽を出さないにしても、細長いスイカの種が複雑に曲がりくねった腸を通り抜けられるのだろうか。盲腸に引つかかって芽を出すことはないのだろうか。

もちろん、この噂も迷信である。スイカの種子を飲み込んでしまっても、まったく心配することはない。複雑な腸も難なく通り抜け、スイカの種子はあなたのうちといっしょに必ずや体外への脱出を果たすことだろう。

人間にとつては、誤ってたまたま飲み込んでしまったのかもしれないが、スイカの種にとつては人間のお腹に入ることは想定内の範囲内なのである。

なるほど、スイカの種子は誤って食べられる危険までも想定して、身を守る能力を身につけているのだ、と納得して

しまうのは早い。実は、むしろ食べられてしまうことこそが、スイカの本当の狙いなのである。

スイカはたっぷりの水分とあの甘味が自慢だ。夏の日差しに乾いた体への水分補給や疲れた体への糖分補給にはもってこいである。

スイカの原産地はアフリカの砂漠地帯である。アフリカでは現在でも、貴重な水分の補給源としてスイカを大切にしているという。砂漠に住む人々にとつてスイカは水がめの役割を果たしているのだ。

砂漠のような厳しい環境条件の中で、スイカが苦勞をして水分たっぷりの甘い果実を実らせるのにはわけがある。実は鳥や動物に食べてもらおうとしているのである。

飢えた虎にわが身を与えたという釈迦ながら、砂漠で果実を与えるとはなんと慈しみの心だろう。

もちろん、スイカがなんの見返りもなく、果実を食べさせているはずはない。甘く熟れたスイカにはあるたくらみがあるのだ。スイカの果実をむさぼり食べた動物や鳥は、スイカの種子もいっしょに飲み込んでしまう。これこそスイカのもくろみなのだ。そして、スイカはお腹の中を通り抜け、糞といっしょに体外へ出るのである。

植物は動物のように自由に動けないが、行動範囲を広げるチャンスが一つだけある。それが種子である。タンポポの種子は綿毛で風に乗って遠くへ飛んでいくし、オナモミの種子はとげとげした実で衣服に引つかかって遠くへ運ばれていく。スイカの種子が好んで鳥や動物の体内に入りたがる理由も、まさにここにある。スイカの種子は食べられて、動物や鳥にあらこちらへ運ばれる。だから、スイカの種子は食べられなければいけないのだ。

もちろん、まんまと食べてもらったスイカの種が、胃の中で芽を出したり、盲腸に引つかかるようなヘマをするはずはない。それどころか、スイカの種子はできるだけゆっくり時間をかけて胃腸を通り、体内にとどまるようにしているという。そうすることで、少しでも遠くまで運ばれようとしているのだ。胃の中も腸の中も、まったく平気なのだ。なんと余裕だろう。

そういえば、スイカ独特の縞模様も鳥や動物に見つかりやすいように発達したと言われている。そこまでしても、ス

イカは食べてもらいたいと思っていたのである。そう考えると、種を食べずに器用に吐き出してしまふ人間は、ずいぶん迷惑な存在だ。

(稲垣栄洋『植物の不思議な生き方』)

問一 A D に入れる語として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、そして イ、もちろん ウ、ところが エ、はたして

問二 〜〜線①「噂」とありますが、「世間で人があれこれと噂をしても、それは長くは続かず、やがて自然に忘れ去られるものだということ」という意味のことわざになるように、次の () の中に入る漢数字を答えなさい。

「人の噂も () 日」

問三 〜〜線②「もってこい」、③「さながら」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

② 「もってこい」

ア、目上の人に渡すこと
イ、欲張りに求めること
ウ、じっくりと待つこと
エ、最も適当であること

③ 「さながら」

ア、そっくりそのまま、非常によく似ているさま
イ、そうはいっても、指示通りにはできないさま
ウ、それとは異なって、別のものをあらわすさま
エ、それからしばらく、流れに身をまかせるさま

問四 ―― 線①「スイカの本当の狙い」とありますが、それはどういうことですか。その内容を説明した次の文の（Ⅰ）～（Ⅳ）に適当な言葉を補って、文を完成させなさい。ただし、（Ⅰ）は十八字、（Ⅱ）は十三字、（Ⅲ）は十字、（Ⅳ）は十一字で、それぞれ本文中からぬき出して答えなさい。（句読点も字数にふくみます）

- | |
|----------------------------|
| （Ⅰ）がスイカの（Ⅱ）しまい、（Ⅲ）出すことによって |
| （Ⅳ）こと。 |

問五 ―― 線②「人間は、ずいぶん迷惑な存在だ」とありますが、それはなぜですか。六十字以内で答えなさい。（句読点も字数にふくみます）

問六 本文には、次の文がぬけています。この文が入るところの直前の五字をぬき出して答えなさい。（句読点も字数にふくみます）

現代で言えば、お腹のすいた人に自らの顔を食べさせるアンパンマンのようなヒーローなのだろうか。
--

問七 この文章で述べられている内容として正しいものには○、正しくないものには×を、それぞれ答えなさい。

- ア、スイカの種子にしてみれば、鳥や人間などの動物に誤って食べられることは危険なことなので、種子の表面を固くて丈夫なガラス質で覆うことで身を守ろうとしている。
- イ、人間はスイカの種子を誤って飲み込むことがあるため「お腹の中で芽が生える」「虫垂炎になる」といった迷信が生まれたが、スイカの種子にとつて人間のお腹に入るとは生存戦略であるといえる。
- ウ、アフリカでは、水分たっぷりのスイカは貴重な水分の補給源となるため大切にされているが、砂漠の厳しい環境条件の中では、実際にはなかなかスイカは育つことができない。
- エ、スイカの種子は動物や鳥の体内にできるだけ時間をかけてとどまるようにしているが、スイカの果実が赤いのも、動物や鳥にみつけてもらいやすいようにするという作戦の一つである。

三 「理子」と「さつき」はスキージャンプ競技をしています。出場する大会ごとに優勝する「理子」は「天才」と言われ、地元の期待を集める選手です。札幌から転校してきた「さつき」は「理子」にさそわれて、半年ほど前に競技を始めました。次の文章は、そんな「さつき」が初めての大会に出場して帰るバスの中の場面です。よく読んで、後の問いに答えなさい。

さつきが宝箱でも開けるように三位のカップが入った箱を開け、金に輝くそれを取り出す。「初めての大会で三位になれたから、お母さんも喜んでくれるかもしれない」

認めてくれたらいいなあと、嬉しそうに笑うさつきの横顔を、理子はじっと見つめる。

(良かった、さつきが入団してくれて)

そう思った直後、さつきの表情につられて綻びかけた A 元が B の奥でよみがえった声に固まる。

——空中姿勢は、出場選手の中で一番じゃないか？

——あの子もあれかもしれないぞ……。

あれ、に入る言葉を、理子は探しあてられる。

① (さつきは本当に、本当に伸びてる。すごい勢いで)

大会デビューがサマーシーズンというのも、さつきにとってはラッキーだと思う。雪と氷でアプローチやランディングバーンを作り上げる冬のシャンツェは、気候の変化で簡単に状態が変わってしまうからだ。ある程度の雪の降りなら、大会は実施されるが、アプローチに雪がうっすらとでもあるのと、まったくないのでは、スキートの滑りも異なってくる。その点、セラミック製のアプローチで飛ぶサマージャンプは、風以外の気候条件に左右されない。スキージャンプは冬のスポーツだけれど、選手として飛びやすいのは、サマージャンプなのだ。

昨日の昼から夕方にかけて、実際のシャンツェで練習をしたとき、さつきは初めてのサマージャンプ用の台に、少し

緊張した表情をしていた。けれども、一度飛んでしまえばもうさつきには笑顔しかなかった。

② 「思っていたより、飛びやすかったよ。サマージャンプってあんな感じなんだね」

③ 理子は見抜いていた。成功体験は人に自信やさらなる向上心といった、プラスの影響を与えるけれど、さつきは他の誰よりも成功体験を自分の味方にしてしまう。人が一度のサクセスで一つなにかをつかむとしたら、さつきは十つかむ。

今日、さつきがつかんだものは計り知れないほど大きいはずだ。

今回は二位だった甲斐選手が、この夏のシーズン中にさつきに抜き去られるかもしれない。人に話したら、始めて半年とちよつとの子がまさかと、相手にされないかもしれないし、甲斐選手だって怒るだろうけれど、理子はその可能性が今日で明らかに高くなったと思っていた。

(ありうる、十分に。私だからわかる)

「ね、理子。グミ食べる？」

さつきはバッグのポケットから、無邪気にマスカット味のフルーツグミを出した。パッケージの封はまだ切られていない。それをさつきはギザギザの切れ目にそって破き、さらに開いた口を指で広げた。マスカットの甘酸っぱい匂いが、理子の C 先をくすぐる。

「理子、手を出して」

言われたとおりにすると、さつきはグミのパッケージを傾けて、薄いグリーンのグミ菓子数個を理子の手のひらにのせてくれた。それから自分でも一つつまんで、口の中へと入れた。

「ああッ」

いきなり自分の指を見てさつきが慌てふためく。

「どうしたの？」

理子が問うと、さつきは「カップをしまつてなかった」と眉尻を下げた。

「グミの表面の粉、指についちゃった。この手で触ったらカップ汚れちゃう」

揺れるマイクロバスの中で、膝の上のカップを上手く足で固定しながら、さつきはグミのパッケージをつまんでいる。理子は手の上のグミをさつと食べてから、自分のバッグからウェットティッシュを取り出して、さつきに渡した。

「ありがとう、理子。助かったあ」

さつきは丁寧^{ていねい}に指先をウェットティッシュで拭^{ぬぐ}ってから、慈しむようにカップを持ちあげ、箱に入れた。そして、箱の表面を撫^なでて、にっこり笑った。

(嬉しそう)

理子はさつきの横顔にちよつと **D** を細めた。

(初めて手にしたカップだもの、嬉しいに決まっている)

でも、理子にはわかつていた。これはほんの始まりに過ぎない。さつきの部屋にはこれから同じようなカップやトロフィーが増えていく。大会に出場することに。

——さつきちゃん、一緒にジャンプやらない？

誘^{さそ}ったことにまつたく後悔はない。理子だつてさつきがいたほうがずっと楽しい。

でも、ジャンプすることにぐいぐい伸びていくさつきを見て、少し胸が騒^{さわ}ぐのも確かだった。

(私はあれほどだったかな)

さつきは飛ぶことを楽しみながら、猛烈な速さで成長し、今日という最初の大会で結果を出した。これからもそうだろう。足踏みをする様が想像できない。その他の少年団の子と、あまりに違^{ちが}う。両者を比べると、まるでさつきは最新鋭^{さいしんえい}の戦闘機で、その他の子はアメリカの田舎^{いなか}の農葉散布セスナみたいだ。

あっけなく、清々^{すがすが}しいほどに追い抜いていく。

三月下旬^{げじゆん}、シーズン最後の雪上でのジャンプ練習を終えた後、永井^{ながい}コーチが理子に言った。

——理子、いい子をスカウトしたな。さつきのどのあたりにピンと来たんだい？

実際に飛んでみるまで、才能なんてものはわからない。体格などがジャンプ向きだな、というのは判断できるとして

も。

理子だつて、さつきに特別な才能を感じたから誘ったわけじゃなかった。

なのにこれほど適性があったなんて——。

(さつきはこの夏のサマージャンプシーズンで実戦を積んで、もっともつと飛ぶようになる)

ふと、肩^{かた}が重くなったので、理子は目をやる。

バスの揺れが眠気^{ねむけ}を誘ったのか、さつきが理子の肩に頭をもたせかけて、静かに寝入^{ねい}っていた。両手の中に、カップが入った箱を大事そうに抱^{かか}えて。

「なあ理子、ちよつと聞こえたけど、八月初めの大会、ドーケン先生見に来んの？」

後方座席から身を乗り出してきた圭介^{けいすけ}に、静かにするよう仕草^{しぐさ}で頼^{たの}み、理子は小さく笑ってから、規則正しく上下するさつきの胸を見つめた。

(乾ルカ「向かい風で飛べ！」)

注 ※ シャンツェイスキーのジャンプ台

問一 **A** **D** には、体の一部を表す言葉が入ります。それぞれ漢字一字で答えなさい。

問二　　～～～線「眉尻を下げた」が表す様子として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

「眉尻を下げた」

- ア、泣きそうな様子
- イ、あせっている様子
- ウ、戸惑っている様子
- エ、困っている様子

問三　　――線①「さつきは本当に、本当に伸びてる。すごい勢いで」とありますが、この様子を比喩ひゆを使って表現している一文を探し、最初の五字をぬき出して答えなさい。（句読点も字数にふくみます）

問四　　――線②「さつきにとってはラッキーだと思う」とありますが、それはなぜですか。その理由を説明した次の文の（Ⅰ）、（Ⅱ）に適当な言葉を補って、文を完成させなさい。ただし（Ⅰ）は十九字、（Ⅱ）は十五字で、それぞれ本文中からぬき出して答えなさい。（句読点も字数にふくみます）

選手は、シャントエが（　Ⅰ　　）冬よりも、（　Ⅱ　　）夏の方が飛びやすいから。

問五　　――線③「理子は見抜いていた」とありますが、「見抜いていた」のどういうことですか。六十字以内で答えなさい。（句読点も字数にふくみます）

問六　　――線④「胸が騒ぐ」とありますが、どのような気持ちを表していますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア、初めての大会で三位になり、どんどん上達している「さつき」に、自分にはない才能があるのではないかとうらやましく思う気持ち。
- イ、初めての大会で三位になり、どんどん上達している「さつき」に、近い将来に自分も追いこされるのではないかと不安になる気持ち。
- ウ、初めての大会で三位になり、どんどん上達している「さつき」に、どんなことがあっても負けてはいけなさと自分を励ます気持ち。
- エ、初めての大会で三位になり、どんどん上達している「さつき」に、才能があることをもつと自覚してほしくていらいらする気持ち。

問七　　――線⑤「仕草」とありますが、具体的にはどうすることですか。わかりやすく説明しなさい。

